

三ツ星ベルト のEVA(エチレン酢酸ビニル)樹脂系 湿式工法用シート防水材

国土交通省公共建築工事標準仕様書(S-C1)適合 日本建築学会JASS8仕様書(S-PC)適合

ウェドリーシート®



下地が湿っていても施工が出来る!!
押え工法に最適!!

三ツ星ベルト株式会社

人を想い、
地球を想う



三ツ星ベルトのEVA（エチレン酢酸ビニル）樹脂系 湿式工法用シート防水材料

ウェドリーシート®

ウェドリーシート®とは

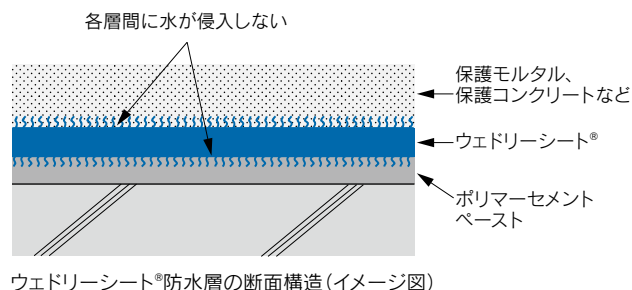
ウェドリーシート®は、日本工業規格JIS A 6008「合成高分子系ルーフィングシート」均質シート・エチレン酢酸ビニル樹脂系（均質エチレン酢ビ）に規定された防水シートです。EVA樹脂系シートの表面に特殊起毛処理し、セメントなどと強固に結合します。

耐候性、耐薬品性、耐寒性に優れており、可塑剤などの揮散する物質を含まないため、経年変化で硬くなったり、脆くなったり、縮んだりすることはほとんどありません。また、食品衛生上無害であり、「水道施設の技術的基準を定める省令」に基づく基準に適合します。



ウェドリーシート®防水層の断面構造

ウェドリーシート®防水層は、シート表面の起毛の間にセメントなどが入り込み物理的に起毛を掴んで固まる事により水の浸入を防ぎ水密性の高い防水層が確保できます。



ウェドリーシート®の物性

ウェドリーシート®はJIS A 6008「合成高分子系ルーフィングシート」均質シート：エチレン酢酸ビニル樹脂系（略称：均質エチレン酢ビ）に合致した防水シートです。

試験項目				JIS規格
引張性能	引張強さ	N/cm ²		1000以上
	伸び率	%		450以上
引裂性能	引裂強さ	N/cm		400以上
温度依存性	試験温度 60℃	引張性能	N/cm ²	150以上
	試験温度 -20℃	伸び率	%	200以上
加熱伸縮性状		伸縮量	mm	2以下 6以下

試験方法 JIS A 6008-2006に準拠

ウェドリーシート®の特長

工期の短縮が可能です!!

- 下地が湿っていても施工が出来ます。
- 躯体コンクリートの乾燥を待たずに施工が出来ます。

屋内防水に適しています!!

- シートとモルタルが強固に密着するため、保護層を薄く出来ます。
- 立上りシート上にトンボ・メタルラスの取付けが不要です。
- タイル仕上げに適しています。

人や環境に優しい工法です!!

- シート及び副資材に有機溶剤を使用していません。
- 施工に火気を使用しません。
- 施工中の臭いが殆どありません。

副資材が少なく、施工が簡単です!!

- シートの接着はポリマーセメントペーストによる流し張りです。
- 下地とシート間の水密性が高いため、端末部のシーリングや押え金物は不要です。

耐久性に優れています!!

- 無機材料であるセメントを接着剤として使用しているため、下地とシートの密着性は殆ど変化しません。
- シート本体は、経年での伸び及び引張り強度の保持率が非常に高く、物性変化が少ない材料です。



防水仕様一覧

仕様説明			適用部位									備考
			陸屋根・底・バルコニー	屋上駐車場	植栽	外溝・水盤	浴槽・浴室・厨房・ トイレ・プール	地下外壁	地下底盤	改修	掲載ページ	
工法番号	施工場所	仕上げ										
WD-301	屋外・屋内	保護	○	○	○	○	○		○	○	5	国交省(S-C1)※屋内 JASS 8(参考仕様(ホ))
WD-501	屋外・屋内	断熱保護	○	○			○			○	5	JASS 8(参考仕様(ホ))
WD-201	屋外	軽舗装	○		○					○	5	JASS 8(S-PC)
WD-301CS	地下(先やり)							○			6	
WD-301CA	地下(後やり)							○			6	

※シート2層張り仕様も対応可能です。ご相談下さい。
 ※上記部位以外の施工をご検討の場合は、当社にご相談下さい。
 ※下地はRC・Pcaとします。それ以外の下地については当社にご相談下さい。
 ※地下構造物、木造建築物は保証対象外となりますのでご注意ください。

「公共建築工事標準仕様書」「公共建築改修工事標準仕様書」(令和4年版) <EVA系シート関係抜粋>

9章(改修は3章)防水工事

4節(改修は5節)合成高分子系ルーフィングシート防水

9.4.3(改修は3.5.3)防水層の種別及び工程

A LCパネル下地及びプレキャストコンクリート下地には適用しない。

表9.4.3(改修は表3.5.3)合成高分子系ルーフィングシート防水(屋内保護密着工法)の種別及び工程

工法	屋内保護密着工法	
種別	S-C1 ^(注1)	
工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.3
2	接着剤(ポリマーセメントペースト)塗布	3.0
3	エチレン酢酸ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.0mm)張付け	—
4	保護モルタル塗り	— ^(注2)

(注) 1. S-C1については、屋内防水に適用する。
 2. 工程4の保護モルタルの塗厚は、特記による。

9.4.4(改修は3.5.4)施工

(2)プライマー塗り

(イ)屋内保護密着工法の場合は、左官ばけを用いて擦り込むように当日の施工範囲をむらなく塗布する。

(3)接着剤の塗布

(イ)屋内保護密着工法の場合は、プライマーの乾燥後、金ごて等を用いて下地にむらなく塗布する。

(5)増張り及び成型役物

(ア)立上り部の出入隅角の補強

(イ)種別S-C1の場合は、ルーフィングシート張付けに先立ち、成型役物又は200mm角程度の増張り用シートを張り付ける。

(イ)種別S-C1の場合、排水器具、配管等と周囲の防水下地材との取合いは、ルーフィングシートの張付けに先立ち、次の処理を行う。

(a)排水器具回りは、幅250mm程度の増張り用シートを排水器具のつばと下地面に割り振り、排水器具のつばには100mm程度、その残りをスラブ面に張り掛け、張り付ける。

(b)配管回りは、幅250mm程度の増張り用シートを配管回りの下地面に張り付け後、幅80mm程度の増張り用シートを下地面に30mm程度張り掛け、張り付ける。

(6)一般部のルーフィングシートの張付け

(イ)屋内保護密着工法の場合は、接着剤(ポリマーセメントペースト)の塗布後、直ちにルーフィングシートを張り付け、ローラー等で転圧して密着させる。

(I)ルーフィングシートの重ね幅等

(c)種別S-C1の場合

ルーフィングシートの重ね幅は、幅方向、長手方向とも100mm以上とする。

ルーフィングシートが3枚重ねとなる部分等に、浮きが生じないように接着剤(ポリマーセメントペースト)を隙間なく充填する。

(7)立上り部の防水末端部の処理

(イ)立上り部を屋内保護密着工法で施工する場合は、接着剤(ポリマーセメントペースト)塗布後、ローラー等で転圧し、ルーフィングシートを張り付け、はみ出したポリマーセメントペーストを端部に覆い被せる。末端部には、押え金物は使用しない。

(10)保護層の施工

(ア)平場の保護モルタル塗り

(a)床塗りの場合は、15.3.5[工法](2)の(イ)及び(ウ)に準ずる。

(b)タイル張り下地等の下地モルタル塗りの場合は、15.3.5(4)(ア)に準ずる。

(イ)立上り部の保護モルタル塗厚は、特記による。特記がなければ、7mm以下とする。

(11)(1)から(10)まで以外は、ルーフィングシートの製造所の仕様による。

防水仕様

屋内防水

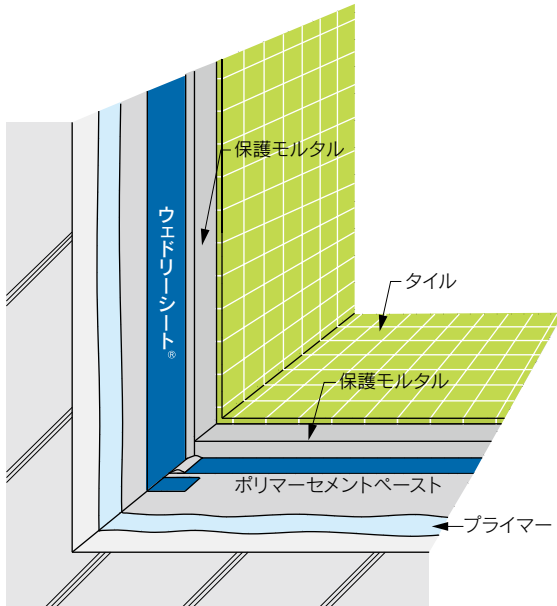
WD-301工法

「公共建築工事標準仕様書」「公共建築改修工事標準仕様書」種別「S-C1」

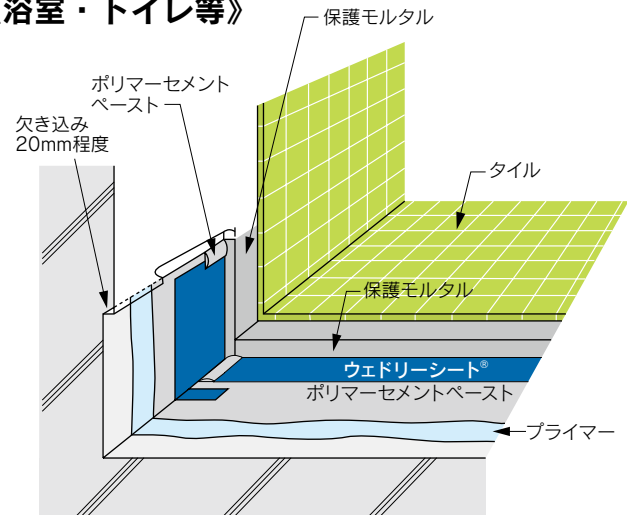
(一社)日本建築学会「JASS 8」参考仕様(ホ)

合成高分子ルーフィング工業会(KRK) RE-F301

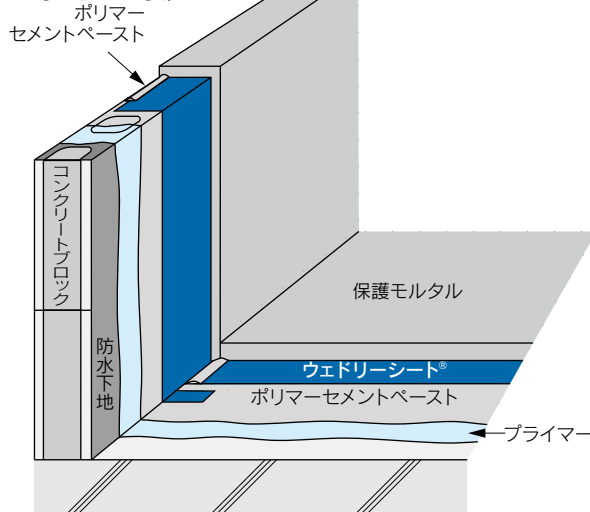
《シャワー室・浴槽・プール等》



《浴室・トイレ等》



《厨房・トイレ等》



用 途

- 浴槽 ■ 浴室 ■ トイレ
- プール ■ 厨房 ■ 工場床

工 程

工程	材 料	標準使用量
立上り	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
平場	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
仕上げ	保護モルタル (別途工事)	10mm程度
	○立上り	10mm以上
	○平場	10mm以上
	2 タイル (別途工事)	—

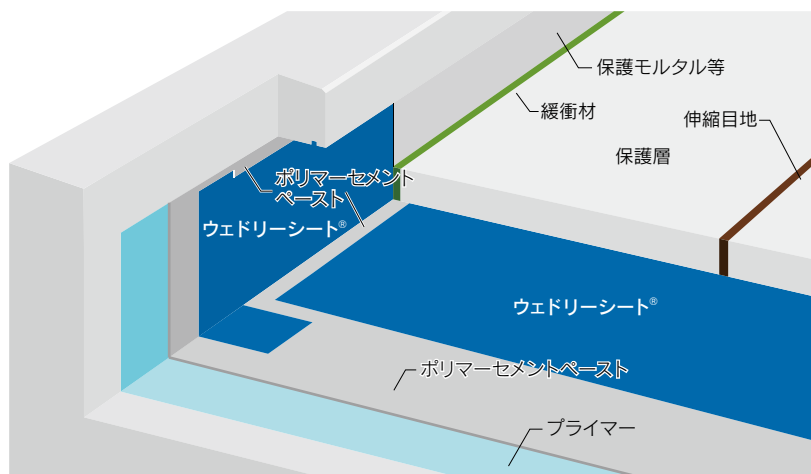
※断熱工法は、WD-501工法(P.5)に準じます。
絶縁用シートは不要です。



屋外防水

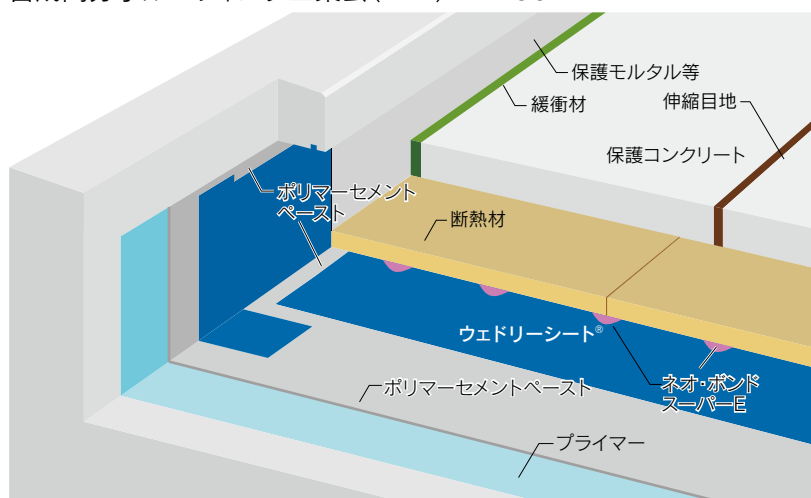
WD-301工法

(一社)日本建築学会「JASS 8」参考仕様(ホ)
合成高分子ルーフィング工業会(KRK) RE-F301



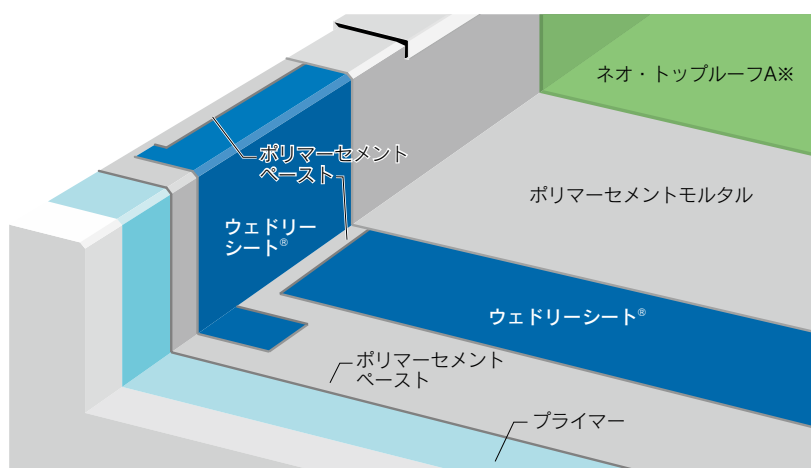
WD-501工法

(一社)日本建築学会「JASS 8」参考仕様(ホ)
合成高分子ルーフィング工業会(KRK) RE-F501D



WD-201工法

(一社)日本建築学会「JASS 8」標準仕様 S-PC
合成高分子ルーフィング工業会(KRK) RE-F201



用 途

■屋根 ■庇 ■バルコニー
■屋上駐車場

工 程

工 程	材 料	標準使用量
立上り	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
平場	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
仕上げ	保護モルタルの場合(別途工事)	10mm程度
	ポリマーセメントモルタルの場合	7.0kg/m ² (3~5mm程度)
	ネオ・トップブルーF Aの場合	0.8kg/m ²
	平場	
平場	保護モルタルの場合(別途工事)	30mm以上
	保護コンクリートの場合(別途工事)	60mm以上

用 途

■屋根 ■バルコニー ■屋上駐車場

工 程

工 程	材 料	標準使用量
立上り	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
平場	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
	4 ネオ・ボンドスーパーE	0.2~0.3kg/m ²
	5 断熱材※	—
仕上げ	保護モルタルの場合(別途工事)	10mm程度
	ポリマーセメントモルタルの場合	7.0kg/m ² (3~5mm程度)
	ネオ・トップブルーF Aの場合	0.8kg/m ²
	平場	
平場	保護コンクリートの場合(別途工事)	80mm以上

※断熱材は、JIS A 9521 A種押出法ポリスチレンフォーム3種b使用。

※保護層打設前に絶縁用シートを敷設する場合があります。

用 途

■屋根 ■庇 ■植栽

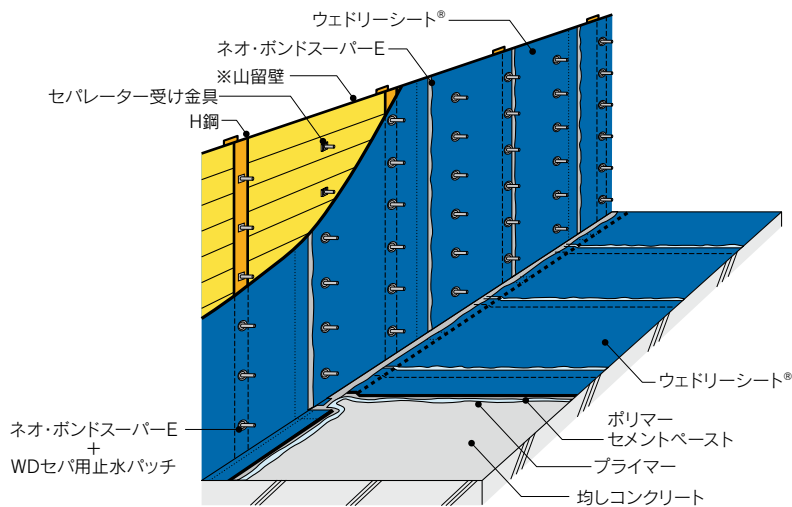
工 程

工 程	材 料	標準使用量
立上り	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
平場	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
仕上げ	1 ポリマーセメントモルタル	7.0kg/m ² (3~5mm程度)
	2 ネオ・トップブルーF A ※	0.8kg/m ²

※植栽仕様の場合、美観性を問わない場合は、ネオ・トップブルーF A仕上げは不要です。

地下防水

地下先やり工法 WD-301CS工法



※図は、セパレーター受け金具に「セパストップT」(株口ア・ジャパン製)を使用した場合です。(取付は別途工事になります)
※セパレーター受けは、金具の種類によって施工方法が変わります。ご相談下さい。

用 途

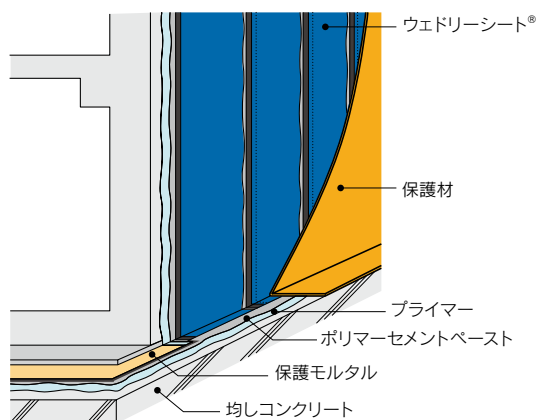
■地下外壁

※山留壁の種類：親杭横矢板、SMW、鋼矢板等。

工 程

工 程	材 料	標準使用量
立上り	1 ウェドリーシート®	—
	2 ネオ・ボンドスーパーE(パッチ部)	—
	3 WDセパ用止水パッチ	—
	4 ネオ・ボンドスーパーE(シート接合部)	—
平場(底盤)	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
	4 保護モルタル(別途工事)	10mm以上

地下後やり工法 WD-301CA工法



※防水施工スペース確保のため、余堀りは1m程度必要になります。

用 途

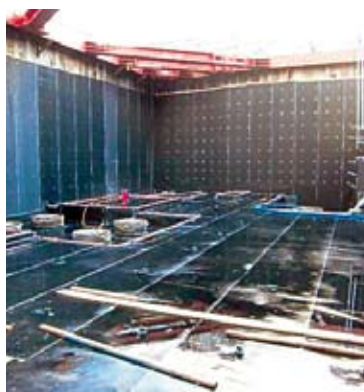
■地下外壁

工 程

工 程	材 料	標準使用量
立上り	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
	4 保護材(モルタル等)	—
平場(底盤)	1 プライマー	0.3kg/m ²
	2 ポリマーセメントペースト	3.0kg/m ²
	3 ウェドリーシート®	—
	4 保護モルタル(別途工事)	10mm以上

施 工 例

WD-301CS工法



WD-301CA工法



現場配合材料の配合比率・使用量について

プライマー・ポリマーセメントペースト・ポリマーセメントモルタル 配合

【使用材料】

WDプライマーA



水道水



普通ポルトランドセメント ※



25kg/袋

珪砂5号 ※



25kg/袋

※当社では販売しておりません

■プライマー配合 ※各工法共通

使用量（塗布量）	0.3kg/m ²	
配合材料	WDプライマーA	水
配合比率（重量比）	1	2
(例) WDプライマーA 1缶(20kg) 当り 作成可能量	20kg	40kg

60kg(総重量) ÷ 0.3kg/m²(使用量)
= **200m²分**

■ポリマーセメントペースト配合【平場部】

使用量（塗布量）	3.0kg/m ²		
配合材料	WDプライマーA	水	普通ポルトランドセメント
配合比率（重量比）	1	4	13
(例) WDプライマーA 1缶(20kg) 当り 作成可能量	20kg	80kg	260kg (10.4袋(25kg))

360kg(総重量) ÷ 3.0kg/m²(使用量)
= **120m²分**

■ポリマーセメントペースト配合【立上り部】

使用量（塗布量）	3.0kg/m ²		
配合材料	WDプライマーA	水	普通ポルトランドセメント
配合比率（重量比）	1	4	14
(例) WDプライマーA 1缶(20kg) 当り 作成可能量	20kg	80kg	280kg (11.2袋(25kg))

380kg(総重量) ÷ 3.0kg/m²(使用量)
約**126m²分**

■ポリマーセメントモルタル配合 ※平場部・立上り部 共通

使用量（塗布量）	7.0kg/m ²			
配合材料	WDプライマーA	水	普通ポルトランドセメント	珪砂5号
配合比率（重量比）	1	3	6	12
(例) WDプライマーA 1缶(20kg) 当り 作成可能量	20kg	60kg	120kg (4.8袋(25kg))	240kg (9.6袋(25kg))

440kg(総重量) ÷ 7.0kg/m²(使用量)
約**63m²分**

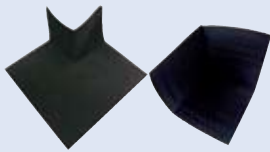
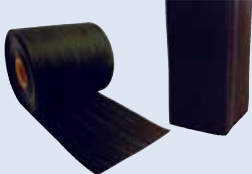
※屋外で使用する場合、防水層のふくれ防止のためプライマーにセメントを混入させる場合があります。

※上記使用量は、あくまで標準使用量であり下地状況や施工面積の大小、役物の有無により増える場合があります。

ネオ・コート PX

用途	配合比率（重量比）	
PXプライマー (標準塗布量 : 0.3kg/m ²)	ネオ・コートPX混和液 : 水 = 1 : 15 (1缶 : 270kg)	1缶(18kg) + 270kg
A配合	ネオ・コートPX混和液 : ネオ・コートPX粉体 = 3 : 2 (1缶 : 1袋)	1缶(18kg) + 1袋(12kg)
B配合	ネオ・コートPX混和液 : ネオ・コートPX粉体 = 3 : 4 (1缶 : 2袋)	1缶(18kg) + 2袋(24kg)

製品一覧

	ウェドリーシート®	防水材	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート 起毛タイプ 1.1mm厚×1,000mm幅×25m長 JIS A 6008 適合品 ※シート厚内訳: 0.05mm(起毛) + 1.0mm(シート本体) + 0.05mm(起毛)
	WDプライマーA	プライマー、ポリマセメントペースト、ポリマーセメントモルタル作製用混和剤	特殊エチレン酢酸ビニル樹脂系エマルジョン 20kg/ペール缶
	WD出隅角 WD入隅角	出入隅角用成型型物	ウェドリーシート®と同素材 出隅用: 230mm幅×230mm長×100mm高 入隅用: 100mm幅×100mm長×100mm高 10個/袋
	WD出入隅用シート	出入隅のシート折り曲げ箇所用シート	ウェドリーシート®と同素材 1.1mm厚×250mm幅×25m長 (中央に折り線入り) ※ウェドリーシート®での施工も可能です
	WDパイプ用シート	貫通管用	ウェドリーシート®と同素材 80mm幅×500mm長 3巻/袋 (パイプ面50mm: 平場面30mmに折り線入り、巻癖付き) ※平場面ははさみでカットを入れながらパイプに沿わせる ※ウェドリーシート®での施工も可能です
	WDセパ用止水パッチ	地下先やり工法で円柱状のセパレーター受け金具取付け箇所への補強張り	ウェドリーシート®と同素材 100枚/袋 直径 70mm ・ 内径 5mm
	発泡ポリスチレンフォーム	断熱材	JIS A 9521 A種押出法ポリスチレンフォーム 3種b スキン層付 厚さ(mm): 25,30,35,40,50 寸法(mm): 910×910、910×1,820
	ネオ・ボンドスーパーE	断熱材用接着剤 地下先やり工法シート接合部等の接着剤	ウレタン系 10kg/箱(アルミパック入り)

※カネライトフォームは、株式会社カネカの登録商標です。

製品一覧



ネオ・ジョイントテープ

金属部・複雑箇所等
補強張り用

ブチルゴム系自然加硫タイプ
1.0mm厚×110mm幅×15m長 4巻/箱
0.8mm厚×50mm幅×20m長 8巻/箱



ネオ・トップルーフA

軽舗装用塗料

水性アクリルエマルションタイプ軽舗装用塗料
18kg/缶
標準色：グレー、ライトグレー、グリーン



ネオ・コートPX 混和液

複雑箇所、役物廻り、下地クラック、打継部、特殊下地等処理用
ウェドリーシート®と同材質のEVA樹脂系塗膜防水材

エチレン酢酸ビニル共重合体樹脂
18kg/缶



ネオ・コートPX 粉体

セメント系特殊フィラー
12kg/袋

※ ネオ・コートPXの配合比率はP.7を参照してください。

専用施工具 ※当社で販売しております。



WDローラー

ウェドリーシート®転圧時に使用する専用脱泡ローラー

その他の施工具



攪拌機



金ゴテ（角・剣先）



左官刷毛



柄杓



陣笠柄杓



ポリバケツ



はさみ



皮スキ



小刷毛



自在ぼうき



空ペール缶

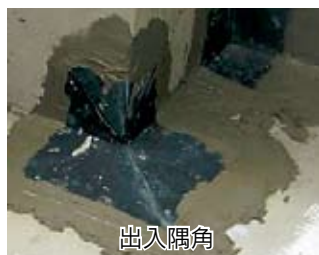
施工手順(ポリマーセメントペースト張り 密着工法の場合)

1 プライマー塗布(立上り部・役物回り)



清掃後、役物回りと立上り部にプライマーを塗布します。

2 役物回り／増張り施工



役物回りを指定材料を使って施工します。



3 ポリマーセメントペースト塗布(立上り部)



立上り部に金ゴテを使ってポリマーセメントペーストを塗布します。

4 立上り部施工



ウェドリーシート®を張り付け、ポリマーセメントペーストが端部からはみ出るようにWDローラー等で転圧します。

5 プライマー塗布(平場部)



左官刷毛、自在ぼうき等を使ってプライマーを塗布します。

6 平場部施工



ウェドリーシート®を引きながら流し張りします。

7 断熱材敷設



ネオ・ボンドスーパーEを用いて断熱材を敷設します。
(断熱工法の場合)

※プライマー、ポリマーセメントペースト等作製時の配合比率、使用量についてはP.7を参照してください。

8 保護コンクリート等打設又はポリマーセメントモルタル塗布



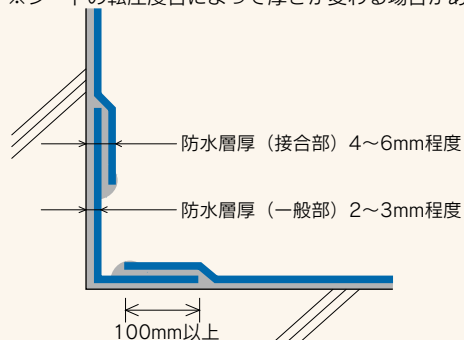
工法・用途に応じた仕上げを行います。



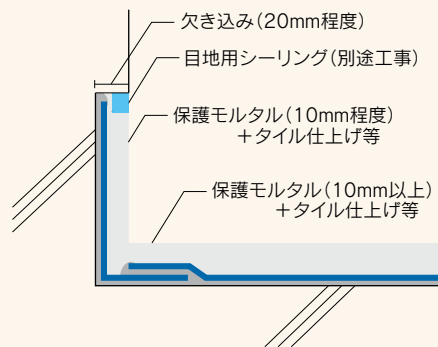
納まり図

接合幅および防水層の厚さ

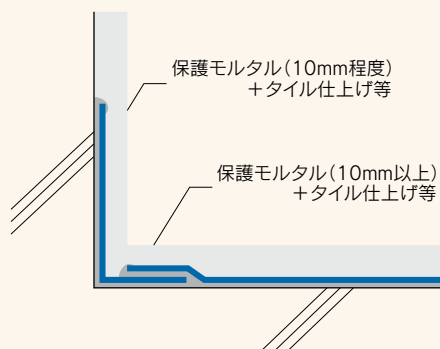
※シートの転圧具合によって厚さが変わる場合があります。



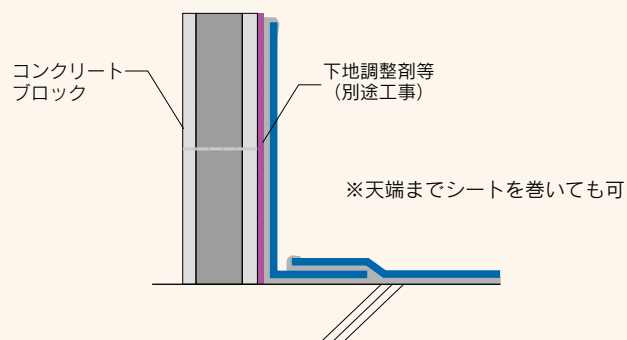
屋内 立上り ①



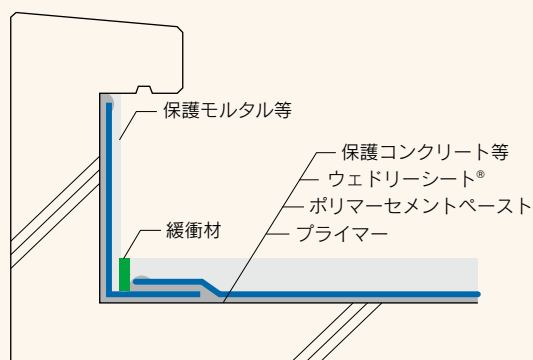
屋内 立上り ②



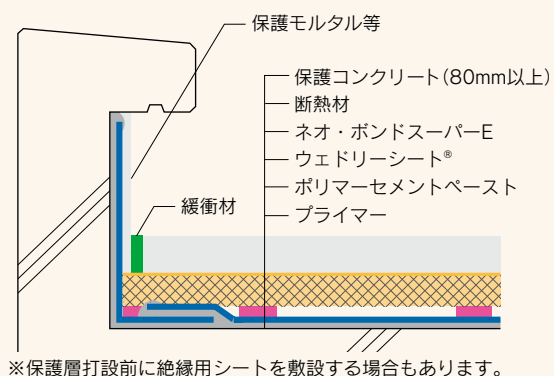
屋内 立上り ③



屋外 パラペット（WD-301工法）

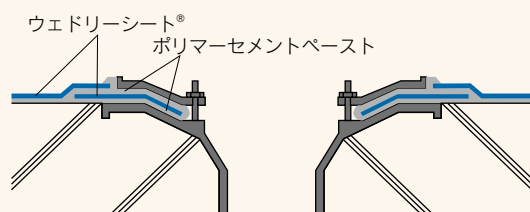


屋外 パラペット（WD-501工法）

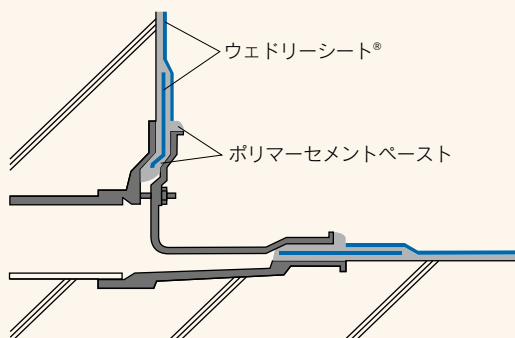


※保護層打設前に絶縁シートを敷設する場合もあります。

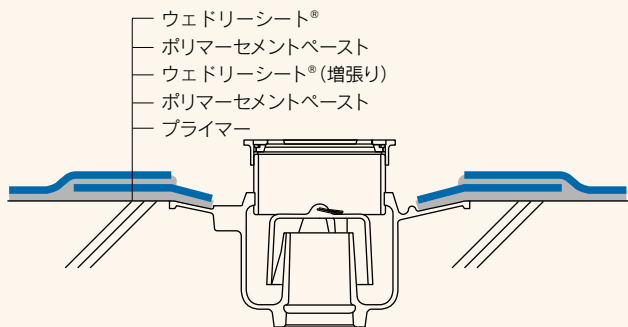
縦型ドレン（屋外用）



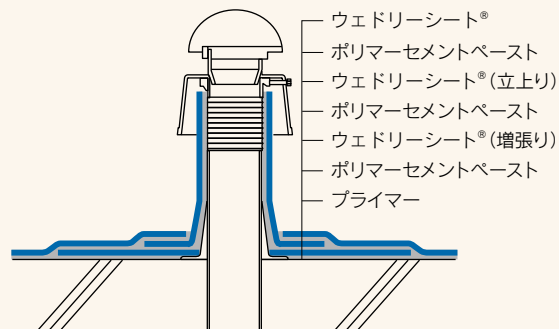
横型ドレン（屋外用）



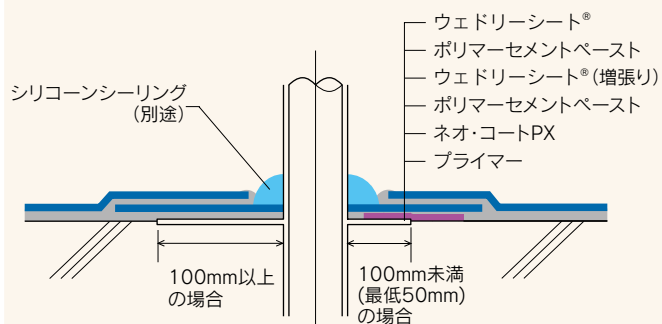
室内用ドレン



通配管

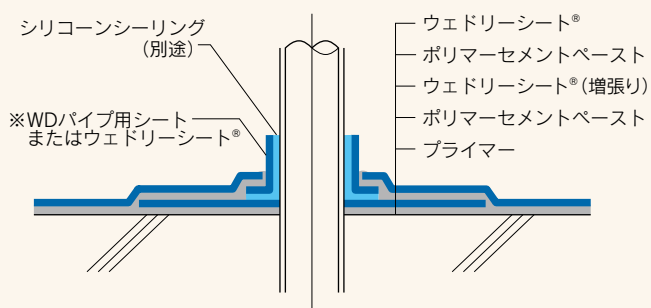


金属系貫通配管ツバ有



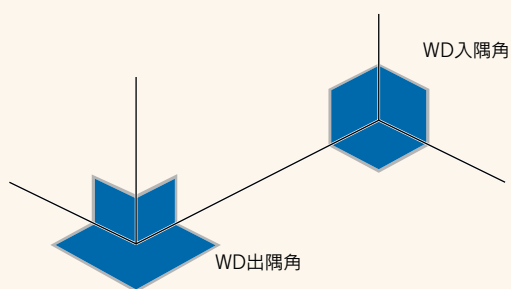
※ツバが100mm未満の場合、ネオ・コートPXを増塗り

貫通配管ツバ無



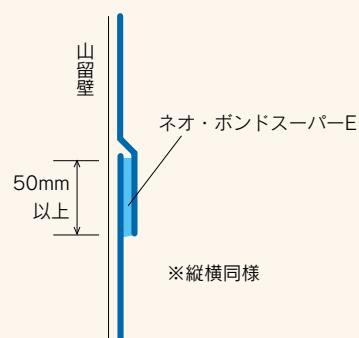
※パイプ面 50mm、平場面 30mm 張付け

出入隅角

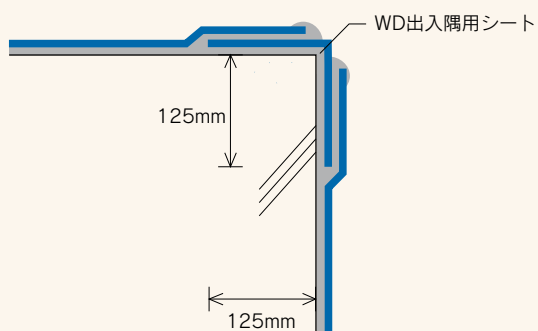


成型役物が使用できない場合はシート増張りもしくはネオ・コートPXを使用

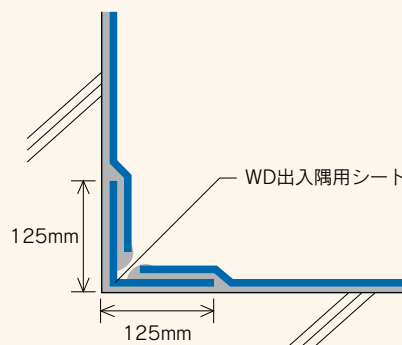
先やり工法接合部



出隅 (WD出入隅用シート使用)

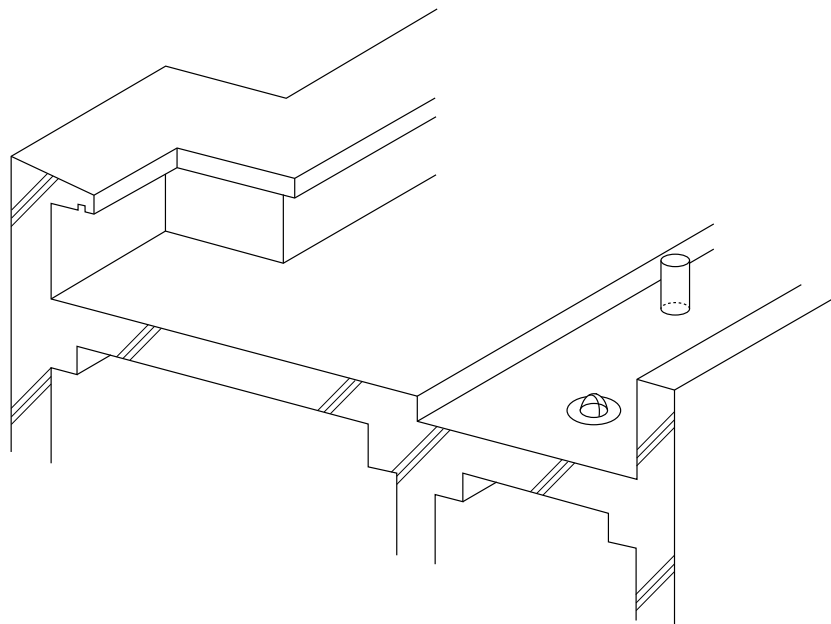


入隅 (WD出入隅用シート使用)



屋上・屋内等防水下地造りのポイント

防水下地の仕上がりは、防水の品質性能に直接影響を与えます。ウェドリーシート®防水では、下記のような下地造りが重要です。



平場

- 金ゴテで表面を平滑に仕上げます。
- ひび割れの発生が少ない下地とします。
- レイタンスの発生が無いように配慮します。
- 鉄筋のはみ出し、その他の突起物は取り除きます。

立上り

- Pコン跡、豆板などはモルタルなどを詰め込んで平坦に仕上げます。
- 型枠目違いなどによる段差、突起は平坦に補修します。

水勾配

- 下地で1/100以上確保します。

出隅

- スラブの出隅および立上り面の出隅は通りよく面取り（3～10mm程度）をします。
- ※コーナー用シートを使用する場合は面取り不要。

入隅

- スラブの入隅および立上り面の入隅は通りよく直角とします。

パラペット

- 水上で200mm以上立ち上げます。

貫通配管など

- 周りを300mm以上あけて設置します。
- 100mm以上のツバ付き配管とします。
- 蒸気管、温湯用など熱を通すパイプは二重管とし中間に断熱材を使用します。

設備用台座など

- 回りを300mm以上あけて設置します。

ルーフドレン（縦型）

- 押え蓋付きとします。
- 平場面と平らな位置にしっかりと固定します。
- ドレンの回りは300mm以上あけた位置とします。

ルーフドレン（横型）

- 押え蓋付きとします。
- 平場面と平らに、かつ、立上り面と平らな位置にしっかりと固定します。
- コーナーより300mm以上離れた所に設置します。

パラペット部の打ち継ぎ

- 平場面より100mm以上の上部とします。

水切りあご

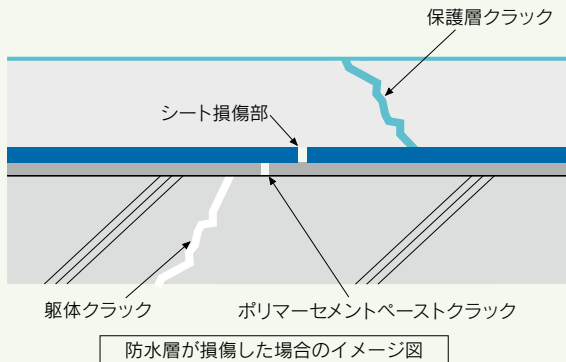
- あご深さは20mm以上とします。

ドア・サッシ下

- 防水張り掛け用のステンレス製フラッシングを取り付けることを推奨します。
- 高さ150mm以上、欠き込み深さ20mm以上確保します。

①

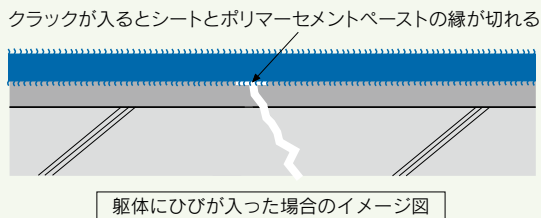
ウェドリーシート®が漏水しにくいのはなぜ？



ウェドリーシート®防水は層間水密性が非常に高いため、防水層間の水の横走りがありません。仮に、シートに損傷があったとしてもその真下にクラックがこなければ漏水せず、それが一致する確率は非常に低いものになります。

②

下地にクラックが入ってもシートが切れないのはなぜ？



ウェドリーシート®防水は、粘着力で接着しているわけではなく、起毛による物理的なアンカー効果などでポリマーセメントペーストと密着しています。しかし、クラック発生箇所は周りの毛が抜けてシートとポリマーセメントペーストとの縁が切れるため、シート本体への影響はほとんどありません。また、シートの伸び率が500%以上あるため、どんなクラックが発生してもシート自体が破断することはありません。

③

湿潤面でも施工ができるのはなぜ？

湿潤下地への接着試験結果

状態	湿潤状態	含有水分 %	接着強度 N/mm^2	
			7日	28日
躯体脱型直後想定	打設後3日	11.6%	0.77	1.47
降雨直後想定	168時間浸漬	6.4%	0.80	1.76
乾燥状態	—	6%	0.95	1.75

ウェドリーシート®防水は、ポリマーセメントペーストによりシートを張り付けるため、下地が乾燥していなくても施工が可能です。

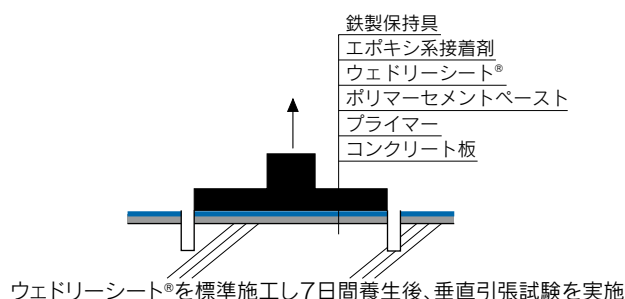
躯体脱型直後や降雨直後を想定した試験の結果、いずれも接着強度に問題はありませんでした。

また、セメントを接着剤としているため、下地とポリマーセメントペースト及びポリマーセメントペーストとウェドリーシート®界面に水が存在していたとしても剥離などの現象は起こりません。

ウェドリーシート®防水層の性能

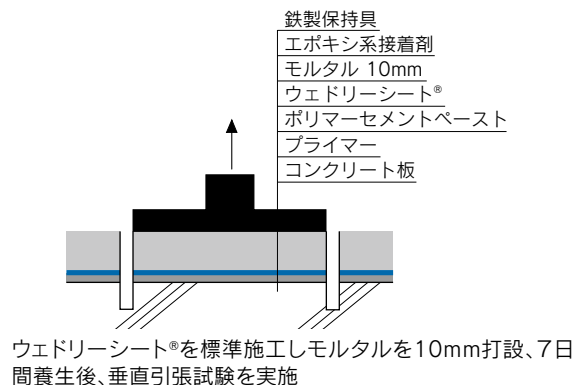
接着性

シート接着強度



1.0N/mm² (10kgf/cm²) 以上

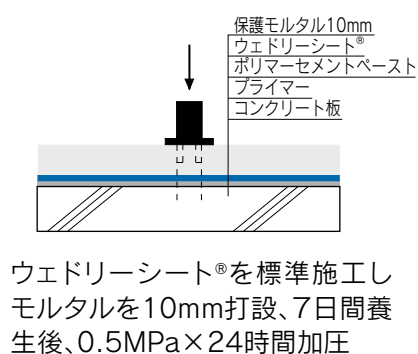
モルタル接着強度



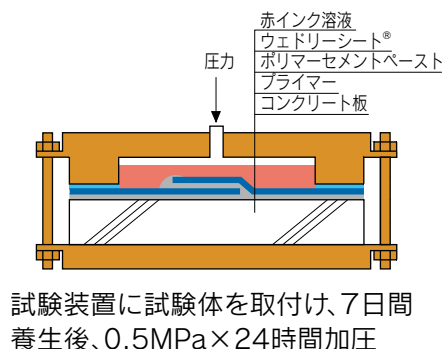
0.6N/mm² (6kgf/cm²) 以上

水密性

膜間水密性



接合部水密性



各層間から漏水なし

注意事項

シンボルマーク
と区分

内容の基準

- ⚠ 危険** 取り扱いを誤ったときに、使用者が死亡または重傷を負う損害・危険が生じることが想定され、かつ損害・危険の可能性が高い場合。
- ⚠ 警告** 取り扱いを誤ったときに、使用者が死亡または重傷を負う損害・危険が生じることが想定される場合。
- ⚠ 注意** 取り扱いを誤ったときに、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

⚠ 注意 設計上の注意事項（防水業者とご相談ください）

- 防水以外の目的で 사용되는場合は、使用目的を事前に防水業者とよく打ち合わせて、仕様を決定してください。
- 下地（デッキプレート、PCa、コンクリート等）の動きにより防水層にクラックやひび割れが入る場合がありますので、事前に構造等について防水業者とよく打ち合わせて仕様を決定してください。
- 出入隅の形状は、入隅は通りよく直角、出隅は面取りで仕上げてください。
- 貫通パイプ・ドレン等は、堅固に取り付け、下地と一体化させてください。
- 下地は、コンクリートあるいはモルタル下地（金ゴテ仕上）とし、平滑で浮き・突起物などの欠損、エフロレッセンスのないようにしてください。新設の場合は、1ヶ月以上乾燥養生してください（下地は鏡面仕上にしないでください）。十分な接着力が得られない恐れがあります。
- 下地の勾配は、1/100以上にしてください。

⚠ 施工上の注意事項（事前に施工仕様書・各材料説明書・SDS等をお読みください）

【天候について】

- 注意** 強風、降雨、降雪時または降雨、降雪が予想される場合は、施工を中止してください。
- 注意** 外気温が5℃以下で施工する場合はポリマーセメントペーストに防凍剤を添加してください。0℃以下の場合は施工を中止してください。
- 注意** 外気温が80℃を超える温水環境下では使用しないでください。

【下地について】

- 注意** 下地の油やレイトランスなど、接着を阻害する汚れ等は必ず除去してください。
- 注意** 下地の凸部や突起物は、サンダー等を用いて平滑にしてください。
- 注意** レイトランスや表面強度のない下地は、サンダー・ケレン棒を用いて削り、強固な下地を出すか、下地調整材を用いて強固な下地を作ってください。
- 注意** 下地の不陸や豆板は、必ずポリマーセメントモルタル、ポリマーセメントペーストを用いて平滑になる様補修を行ってください。
- 注意** 下地のクラックや打ち継ぎ部は、ウェドリーシート®を増張りするかネオ・コートPXで補強塗りを行ってください。
- 注意** 下地に水分があっても施工できますが、湧水や溜り水が存在する場合は除去してください。

【作業環境について】

- 警告** 施工場所や材料保管場所の周囲では火気を使用しないでください。
- 警告** 室内の施工においては、十分換気に注意してください。換気の悪い場所では、有機溶剤用防毒マスク等を着用して適切に換気処置を取ってください。
- 警告** 混合・攪拌する際は、保護マスクを着用し、皮膚に付かないように保護手袋や、眼に入らないように保護眼鏡を着用してください。
- 注意** 施工場所は関係者以外の立入りを禁止してください。

【施工上の注意】

- 危険** 墜落防止のために工事現場周辺には安全柵を設けてください。
- 警告** 傾斜地では滑落の危険があります。足場を確保したうえで、安全帯などを着用してください。
- 警告** 容器の取っ手は手さげ専用です。荷揚げする場合は、耐荷重のある運搬用ネット（もっこ）を使用してください。
- 注意** 施工後すみやかに保護・仕上げを行ってください。やむをえず時間が空く場合はシート表面の汚れ・損傷がない様、養生を行ってください。

⚠ 取扱い上の注意事項

【法令の注意事項】

- 注意** 製品は消防法、労働安全衛生法、化学物質の審査および製造等の規制に関する法律の規制を受けますのでこれらを理解し、安全に作業を行ってください。

【製品使用上の注意事項】

- 警告** 製品を取扱う前に製品カタログ、安全データシート（SDS）等をよく読んで理解してから使用してください。
- 警告** 防水用途以外の仕様では使用しないでください。また飲料水、食品と直接触れるような使用はしないでください。
- 警告** 接着剤、塗料などを含む廃材を、河川、湖沼、海などへ廃棄しないでください。また中身を残したままの廃棄や火中への投棄はしないでください。漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあります。
- 注意** 液がこぼれた場合は、ウエスで拭き取るか、砂等で流出しないように吸い込ませ除去してください。
- 注意** 2液タイプの製品は、定められた混合比率を守ってください。他の製品と混合しての使用は接着不良等の不具合が生じるおそれがあります。
- 注意** 製品を小分けして使用する場合は、事前に良く攪拌混合してください。製品が分離していると期待の性能が得られない恐れがあります。
- 注意** 取扱い後は、手洗い、うがいを十分に行ってください。付着物により健康を損なう恐れがあります。
- 注意** 作業着に付着した場合は、その汚れを落としてください。
- 注意** 使用後の空き缶の潰し作業はあらかじめ養生してから行ってください。

【事故防止の注意事項】

- 警告** 火気厳禁とし、火気を近づけたり火気のある場所で使用しないでください。火災事故が発生する恐れがあります。

- 警告** 取扱う場所には、必要に応じて局所排気装置を設置してください。

- 警告** 取扱い中は、適切な保護具（防毒マスク、ホースラインマスク、メガネ、手袋等）を着用して作業を行ってください。着用しないと負傷の恐れがあります。

【応急措置】

- 注意** 眼に入った場合は、速やかに流水で15分間以上洗ってから眼科医の処置を受けてください。
- 注意** 皮膚に付着した場合は、大量の水と石鹸で洗い流し、また大量の蒸気を吸入した場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。
- 注意** 飲み込んだ場合は、安静にし、直ちに医師の診断を受けてください。尚、無理に吐かせないでください。
- 注意** 吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。

【廃棄方法】

- 注意** 使用済みの空き缶、材料の付着した手袋、ウエス、使用済みの溶剤等は専門の廃棄物処理業者に委託して処理してください。

【保管方法】

- 警告** 消防法上の危険物は、法に従って保管してください。
- 注意** 危険物の保管には、数量により貯蔵の届け出、許可等の手続きが必要な場合があります。
- 注意** 一定場所を定め、直射日光、雨の当たらないように保管してください。また部外者が出入りできない場所に、密閉して保管してください。

⚠ 防水層利用上の注意事項

- 警告** 防水層の表面が濡れている時は、滑りやすいので十分に注意してください。足を滑らして転倒・負傷する恐れがあります。
- 警告** 粗面仕上げにしている場合は、つまずく恐れがありますので走らずに歩行には十分に注意してください。
- 警告** 防水層の上や付近では、花火や焚き火を使用しないでください。火災事故が発生する恐れがあります。
- 注意** 防水層の上に油・酸等の腐食性の液体や、化学薬品・ガソリン・灯油・塗料・溶剤・肥料等をこぼさないでください。またダクトや煙突からのミスト、油煙等の混じった排気のないようにしてください。防水層が変色・膨潤・劣化して防水機能を損なう恐れがあります。
- 注意** 防水層の上には、運搬作業や設計時に予定した以外の重量物は置かないでください。重量物による防水層の変形や損傷の恐れがあります。

- 注意** 防水層の上に重量物やテーブル、椅子等を置いたりスノコ等を敷く場合は、接地部にゴム板などで保護・養生してください。ゴム板等で養生しないと、防水層に損傷を与える恐れがあります。
- 注意** 防水層の上で作業する場合は、ベニヤ板等で養生してください。カッターナイフ等の使用は、防水層に損傷を与える恐れがあります。
- 注意** 防水層を新たに貫通させるような作業・機械機器の設置は、行わないでください。防水層に穴が開き、漏水する恐れがあります。釘やビス打ち等の打ち込み作業は行わないでください。
- 注意** 防水層の上で激しい運動やゴルフの練習・自転車・一輪車等の運転をしないでください。タイヤや靴底のカカトの荷重によって、防水層に損傷を与える恐れがあります。
- 注意** 防水層の上では、ペットの飼育をしないでください。動物の爪や歯で防水層に傷をつけ、排泄物が防水層を劣化させる恐れがあります。

⚠ 維持管理上の注意事項

- 注意** 6ヶ月毎に屋根や防水層面の清掃を行ってください。特に排水口周りや入隅部分の泥や枯れ葉等を除去してください。排水不良を生じ、漏水する恐れがあります。
- 注意** 定期的に点検を行ってください。異常が認められた場合は施工業者に連絡し補修を行ってください。場合によっては、防水機能が失われる恐れがあります。
- 注意** 防水層の洗浄液には、家庭用中性洗剤以外の薬品は使用しないでください。酸・塩素系の洗剤は、防水層を変形・損傷させる恐れがあります。

- 注意** 防水層の洗浄には、金属ブラシや金属タワシは使用しないでください。防水層に傷がついたり損傷する恐れがあります。柔らかい布や雑巾で清掃し、十分に乾燥してください。
- 注意** 防水層に損傷を与えた場合や、防水工事部分から雨漏りが発生した場合は、速やかに施工業者に連絡ください。
- 注意** 仕上げ塗料は、防水層の劣化を抑制し美観の維持・向上に効果があります。劣化状態に応じて有償で仕上げ塗料の塗り替えを行ってください。



三ツ星ベルト株式会社 建設資材本部

www.mitsuboshi.com

神戸本社	〒653-0024	神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)685-5770 FAX(078)685-5789
東京	〒103-0027	東京都中央区日本橋2丁目3番4号 ☎(03)5202-2506 FAX(03)5202-2526
名古屋	〒485-0077	小牧市大字西之島1818番地 (三ツ星ベルト株式会社 名古屋工場内) ☎(0568)41-7600 FAX(0568)41-7601
神戸	〒653-0024	神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)685-5791 FAX(078)685-5789
広島	〒738-0004	広島県廿日市市桜尾2丁目2番39号 ☎(0829)32-9292 FAX(0829)32-9294
四国	〒769-2401	香川県さぬき市津田町津田2893番地 ☎(0879)42-3189 FAX(0879)42-2295
福岡	〒812-0888	福岡市博多区板付1丁目3番1号 ☎(092)441-4453 FAX(092)451-7186
札幌	〒062-0902	札幌市豊平区豊平2条3丁目1番17号 ☎(011)841-9131 FAX(011)812-9370

KRK

合成高分子ルーフィング工業会
<http://www.krkroof.net>

- ①最新のカatalogかどうか、弊社ホームページでお確かめください。
- ②ご不明の点がありましたら、上記までお問合せください。
- ③お断りなく、記載内容を変更する場合があります。
- ④本カタログの一部または全部を複写、複製、改変することは形態を問わず禁じます。